旭川医大病院ニュース

https://www.asahikawa-med.ac.jp/

編集　旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長
谷野美智枝

イグ・ノーベル賞を代理受賞して

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授　髙原 幹

このたび、当講座の初代教授・海野徳二先生の研究「鼻のかみ方―擤鼻の気体動力学的研究―」が、第36回イグ・ノーベル賞医学賞に選ばれました。奥様の温かいご後押しもいただき、すでに他界された海野教授に代わり、3代目教授である私が、2026年9月3日、スイス・チューリッヒで開催された授賞式に出席してまいりました。

今年4月、日本におけるイグ・ノーベル賞コーディネーターである立教大学・古澤先生より最初のご連絡をいただいた際、あまりにも思いがけないお話しに、にわかには信じることができませんでした。また、公式発表の直前まで厳重な機密保持が求められ、ごく限られた関係者にしかお伝えできない日々は、「言いたくても言えない」もどかしさで、大変辛い期間でもありました。

イグ・ノーベル賞は、「まず人々を笑わせ、そして考えさせる」研究に贈られる国際的な賞です。一見ユーモラスに聞こえますが、受賞研究の多くは、日常生活に深く根ざした、真剣で実用的な科学的発見です。授賞式は、本物のノーベル賞受賞者から直接トロフィーが手渡される、笑いと温かな拍手に包まれた、世界にも類を見ない独特の式典でした。

海野教授が半世紀近く前に日本耳鼻咽喉科学会会報に報告された「正しい鼻のかみ方」の要点は、今日の臨床にも通じる明快なものです。第一に、片側ずつかむこと。両側を同時にかむと気流が分散され、分泌物の排出効率が低下します。第二に、しっかりかむこと。耳への悪影響を恐れて弱くかむ必要はなく、十分な気流を生じさせることが効果的な排出につながります。毎日の何気ない動作の中に科学的な真実が隠れていることを、先生は緻密な計測と鋭い洞察によって明らかにされました。

授賞式の壇上では、これまで経験したことのない極度の緊張に見舞われ、用意していたスピーチの半分も話し終えないうちに、バナナに扮したタイムキーパーに追い出されるという、何とも情けない結果となりました。それでも、初代教授の業績が世界に認められた歴史的瞬間に立ち会えたことは、この上ない光栄でした。海野先生の研究が半世紀の時を超えて世界に届いたことを誇りに思うとともに、この受賞は当講座一同にとっても大きな励みとなりました。先生の旺盛な探究心を胸に刻み、私自身も、そして当講座も、次世代に伝わる研究を続けてまいります。

▲ 授賞式において、故海野徳二先生に代わり賞を受領する様子

▲ 授賞式でスピーチを行う様子。制限時間が近づくと、バナナ姿のタイムキーパーに囲まれ、終了を促されます。

▲ イグ・ノーベル賞のトロフィーと副賞の10兆ジンバブエ・ドル紙幣。受賞の記念として教授室に大切に飾られています。

今号の掲載記事

○ イグ・ノーベル賞を代理受賞して …… 1
○【報告】皆さまからのご支援により待合椅子とエアマットレスを整備 …… 2
○【報告】「膵がん早期診断へ向けた、血液を用いる新たな診断法の開発」～1年間の成果報告～ 2
○【報告】「Best Doctors in Japan 2026-2027」に選出されました …… 3
○【報告】夏休みキッズスクール開催 …… 3
○【報告】クリニクラウンがやってきた！ …… 3
○【報告】旭川医科大学病院 オープンホスピタル2026～未来の自分を見つけよう！職業体験イベント～ …… 4
○【報告】管理職交流会を開催しました！ …… 4
○【お知らせ】旭川医科大学医学部看護学科開設30周年記念事業～受け継ぐ3つのA、拓く未来～ …… 5
○【報告】東病院長の「足梗塞」関連メディア出演情報 …… 5
○【シリーズ・診療科紹介】皮膚科・泌尿器科 …… 6
○【薬剤部】新薬紹介（90）ジアゼパム点鼻液（スピジア®点鼻液） …… 7
○【臨床検査・輸血部】医師を対象に「グラム染色勉強会」を開催！ …… 7
○【お知らせ】旭川医科大学公式クラウドファンディング第5弾「北海道の『見る』をまもる｜旭川から挑む、高度で目に優しい、次世代の眼科医療」 …… 8
○ 患者数統計・時事ニュース・編集後記 …… 8

報告　皆さまからのご支援により待合椅子とエアマットレスを整備

旭川医科大学基金にいただきました温かいご支援により、このたび院内の待合椅子およびエアマットレスを整備いたしました。職員一同、心より感謝申し上げます。

初診・再診受付窓口や会計待合、外来待合の椅子の一部をリニューアルしました。このたび整備した外来待合用の新しい椅子の一部は、従来のものに比べ、背もたれと座面の高さが異なります。これは、ご意見箱に寄せられた患者さんからのご要望を参考に選定したものです。背もたれや座面の高さ、足裏の接地のしやすさに配慮し、腰への負担軽減や座りやすさを考慮しました。それぞれの外来待合で、患者さんがご自身に合った椅子を選べるよう、高さの異なる椅子を配置しています。

▲ 外来待合に設置された高さの違う椅子

また、当院の元職員の方からエアマットレス30台をご寄贈いただきました。いただいたエアマットレスは、褥瘡発生のリスクが高い患者さんを中心に活用し、より安全で安心な療養環境の整備につなげてまいります。ご寄贈者の「患者さんのために」という思いを大切に受け継ぎながら、今後も褥瘡予防とケアの充実に努め、患者さんの生活の質の向上に取り組んでまいります。

※ 旭川医科大学病院の公式Instagramでもご紹介しています！
（病院公式 @amu_hospital　看護部公式 @amu_kangobu）

▲ 褥瘡予防に活用されるエアマットレス

報告　クラウドファンディングプロジェクト「膵がん早期診断へ向けた、血液を用いる新たな診断法の開発」～1年間の成果報告～

内科学講座（消化器内科学分野）講師　髙橋 賢治

膵がんは早期発見が難しいがんのひとつですが、10mm以下の小さな段階で見つかれば、治る可能性（5年生存率）は大きく高まります。私たちはH.U.グループ中央研究所との長年の共同研究により、血液や膵液に含まれるごくわずかな核酸（遺伝情報を伝える物質）を組み合わせた「診断パネル」の開発を進めており、現在はその精度を確かめる検証（validation）の段階に入っています。

2025年7月には、第56回日本膵臓学会大会のランチョンセミナー（H.U.グループ共催）にてこの研究成果を発表する機会をいただき、200名を超える医療関係者の方々にお集まりいただきました。この会は同年7月25日付の日本経済新聞でも紹介されました。

H.U.グループ、膵臓がん早期発見へ産学連携セミナーを共催 - 日本経済新聞（2025年7月25日）
https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC255JJ0V20C25A7000000/

▲ 第56回日本膵臓学会大会ランチョンセミナーにて発表する筆者（2025年7月25日）

2～3年後を目途に、実際の医療現場で使っていただける検査（LDT:検査施設が独自に開発・提供する臨床検査）としての実用化を目指し、引き続き取り組んでまいります。今回の活動が将来的な膵がんの早期発見に少しでも貢献できますよう、尽力したいと思います。引き続きのご支援・ご指導のほどよろしくお願い致します。

報告　「Best Doctors in Japan 2026-2027」に選出されました

広報誌編集委員会委員長　谷野 美智枝

このたび、本院の医師7名が、Best Doctors in Japan 2026-2027に選出されました。

Best Doctors in Japanは、医師同士の相互評価（ピアレビュー）によって選出されるもので、「自分や家族が同じ分野の治療を受けるとしたら誰に診てもらいたいか」という観点から、医師が他の医師を推薦・評価する調査に基づいて選定されています。企業や団体による推薦、医師自身による応募や自己推薦は認められておらず、医師間の評価によって選出されることが特徴です。

本院ではこれからも、地域医療及び高度先進医療の発展に貢献するとともに、質の高い医療の提供と人材育成に努めてまいります。

※ Best Doctors in Japan（ベストドクター）認定についてはこちらをご覧ください。 https://bestdoctors.com/japan

東 信良（病院長）
髙橋 悟（小児科）
谷野 美智枝（病理部）
中川 直樹（循環器内科/腎臓内科）
沼倉 一幸（泌尿器科）
藤谷 幹浩（消化器内科）
和田 直樹（泌尿器科）

▲ 今回選出された医師7名（50音順）

▲ 認定証

報告　夏休みキッズスクール開催

復職・子育て・介護支援センター

2026年7月24日にキッズスクールを開催しました。今回は1日のみの開催でしたが、想定を上回る多くの参加希望をいただき、定員を超える36名の子どもたちを迎え、大盛況のうちに実施することができました。

今回の特別授業は、キッズスクールの校長でもある病理部の谷野美智枝教授、中振大貴先生による『自分の細胞をみてみよう！』。綿棒で頬の内側の細胞を取り、色で染めて、実際に自分の細胞を見てみました。実験的な要素を含む内容に興味津々な子どもたちでした。

工作『カラフルガラスランプ』では、ガラス瓶にカラーフィルムを貼り、ステンドグラス風のランプを作り、個性あふれる素敵な作品が完成しました。子どもたちが大好きな、学生さん考案のビンゴやジェスチャーゲームも大盛り上がりでした。

おやつに作った『オリジナルパフェ』は大好評で、ほとんどの子どもたちがおかわりをしていました。

今回のキッズスクールが子どもたちにとって夏休みの良い思い出になれば幸いです。

報告　クリニクラウンがやってきた！

病院総務室

2026年6月24日、旭川医科大学病院の4階西病棟（小児病棟）に「クリニクラウン」がやってきました！

前回2月の訪問に続き、今回も「うえ」と「きゃしー」の二人がみんなに会いに来てくれました。

楽しみにしていたクリニクラウンとの交流の時間を、入院中の子どもたちは笑顔で過ごすことができました。

訪問は日本クリニクラウン協会への寄附金によって実施されており、子どもたちやご家族、病棟スタッフに、たくさんの笑顔と心温まるひとときを届けてくれています。

継続的な訪問により、当院に入院する子どもたちに寄り添い続けてくださっているクリニクラウン。また来てくれることを楽しみに待っています♪

※「クリニクラウン」とは
病院（クリニック）を訪問する道化師（クラウン）のこと。入院生活を送るこどもの病室を定期的に訪問し、遊びや関わり（コミュニケーション）を通じて、こどもたちの成長をサポートしています。（日本クリニクラウン協会ホームページより抜粋）

報告

旭川医科大学病院 オープンホスピタル2026
～未来の自分を見つけよう！職業体験イベント～

副病院長（患者サービス、ボランティア担当）・看護部長　井戸川 みどり

▲ オープニングセレモニーの様子

今年度で3回目となる「オープンホスピタル2026」を9月26日（土）に開催しました。本イベントは、地域の若者に医療への関心を高めてもらうとともに、旭川医科大学病院で働くさまざまな医療職の姿や仕事の魅力を広く知っていただくことを目的としています。今年度も午前・午後の二部構成で実施し、多くの皆さんにご参加いただきました。

第一部では、医療職を目指す大学・専門学校生を対象に「他職種体験」を実施しました。普段学んでいる分野とは異なる医療職の業務を体験することで、各職種の役割や、多職種が連携して患者さんを支える「チーム医療」への理解を深める機会となりました。第二部では、旭川市および近隣地域の中高生を対象に、各医療職による体験ブースやスタンプラリー、白衣での写真撮影会などを実施しました。当日はドクターカーの展示に加え、旭川市のシンボルキャラクター「あさっぴー」も来場し、会場を盛り上げました。

今年度は、これまでの看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、リハビリ職、臨床工学技士、管理栄養士の体験ブースに加え、新たに医師の仕事を紹介するブースを設けました。医師ブースでは、「縫合体験」や「BLS（一次救命処置）体験」を実施しました。参加者は説明を受けながら実際に手を動かし体験することで、医師の仕事や医療現場での役割について理解を深める機会となりました。

各ブースでは、医療機器に触れたり、現場で働くスタッフから仕事内容や仕事の魅力について直接話を聞いたりするなど、普段できない体験をしていただきました。今回の体験が、医療の仕事への理解を深め、将来の進路について考えるきっかけとなることを願っています。

当日は、第一部は32名、第二部は中高生129名、保護者33名、あわせて194名の皆さんにご参加いただきました。

今後も参加者の声を取り入れながら内容の充実を図り、地域と病院をつなぐ機会として、医療の魅力を次世代へ伝える取り組みを継続してまいります。

▲臨床工学技士体験

▲ 診療放射線技師体験

▲ 一次救命処置の医師体験

報告

管理職交流会を開催しました！

病院長補佐（職員啓発担当）　田﨑 嘉一

私達の病院がより働きがいのある職場になることを目指して、2026年6月17日に管理職交流会を開催しました。医師、看護師、その他のメディカルスタッフ、事務職員など計19名が参加しました。

はじめに、病院コーチングコアメンバーが「アジフライに何をつけて食べるか？」というお題でグループ討議のデモンストレーションを行ったところ、参加者から「私はマヨショウ（マヨネーズと醤油を混ぜたもの）」という意見が出るなど大いに盛り上がり、その後の話しやすい雰囲気づくりができました。

本題の「他部署とのコミュニケーションの工夫」と「人員不足対策・離職防止に関する各部署の取組」というテーマの意見交換では、各部署の様々な取り組みが紹介され、参加者にとって参考になったと同時に、お互いの部署への理解も深まり、部署間の話しやすさの土台づくりもできたかと思います。参加者アンケートでもとても好評でしたので、今後もこのような機会を継続していきたいと考えています。

お知らせ

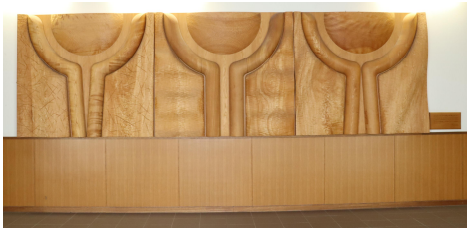
旭川医科大学医学部看護学科開設30周年記念事業 ～受け継ぐ3つのA、拓く未来～

医学部看護学科 教授　長谷川 博亮

旭川医科大学医学部看護学科は、開設から30年を迎えました。社会や医療を取り巻く環境が変化する中、地域に根ざした看護学教育を積み重ねてきました。これまでに1,700名を超える卒業生を輩出し、看護師、保健師、助産師として地域医療・保健・福祉のさまざまな分野で活躍しています。

看護学科開設30周年記念事業では、地域の皆さま、卒業生、関係機関への感謝をお伝えするとともに、30年の歩みを振り返る記念式典や、学びを支える老朽化ロッカー更新プロジェクトなどを計画しています。

昨年度には、次の50年を見据えた教育理念を策定しました。その理念の核となるのが、開設当初から受け継がれてきた「責務(Accountability)」「権能(Authority)」「自律(Autonomy)」の3つのAです。長年培ってきた3つのAを時代とともに発展させながら、旭川医科大学の看護教育の礎として次世代へ継承します。30周年を節目に志を新たにし、地域の皆さまとともに看護の未来を支え、次代を拓いてまいります。



▲ 看護学科棟1階に飾られたレリーフ
上の円は「苦痛・孤独・不安」を抱える対象者を、下はプライマリ・ナースの両手を表し、看護師の手が対象者を包み込んで守る様子を表している。対象者と直接1対1の関係を確立し、看護を実践するプライマリ・ナースの姿を抽象的に表現したもの、と制作のプレートに刻まれています。

看護学科開設30周年を祝う記念式典を開催

看護学科では、開設30周年を記念し、記念式典を実施いたします。

本学の教職員や卒業生はもちろん、日頃から看護学科を支えてくださっている地域の皆さまにもご参加いただけるよう、感謝の気持ちを込めて準備を進めています。

看護学科30年の歩みを振り返るとともに、これからの未来を展望する機会として、多くの皆さまのご来場を心よりお待ちしています。

記念式典について詳しくはこちら→

看護学科開設30周年記念事業　**老朽化ロッカー更新プロジェクト ご寄附のお願い**

日々努力を重ねる看護学科の学生が、少しでも快適な学生生活を送れるよう、皆さまの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

事業の詳しい内容・ご寄附はこちらから

報告

東病院長の「足梗塞」関連メディア出演情報

動脈硬化症は全身の動脈に忍び寄ってきます。皆様よくご存知の「心筋梗塞」や「脳梗塞」と同じように、足に血流を送り届ける下肢動脈にも動脈硬化が起こります。日常の食生活や生活習慣の改善や、散歩や運動などの習慣、そして足をよく観る習慣が、あなたやあなたのご家族の足を救うことに繋がります。(公開講座チラシから抜粋)

番組ホームページから「足梗塞」について東病院長がお話しした情報がご覧いただけます。

◆2026年4月9日(木)
「足のSOS」痛み・むくみに潜む危機｜あしたが変わるトリセツショー [総合] NHK
番組ページでは“足梗塞”を予防するためのセルフチェック法や“足の血圧検査”を受けるためのチェックリストを公開しています。

◆2026年5月21日(木) テレビ朝日
カルーセル麻紀さん発症『足梗塞』痛みで歩けず“切断寸前”に｜病気のサイン＆予防法｜「羽鳥慎一モーニングショー」
番組ページでは“足梗塞”を予防するためのセルフチェック法を紹介しています。

シリーズ 診療科紹介　皮膚科

皮膚科学講座 教授　藤田 靖幸

～道東・道北の皮膚科診療を支えます～

皮膚のトラブルは、誰もが一度は経験したことがあるのではないでしょうか。虫に刺された、けがをした、にきびができた、水虫になった―こうした身近な皮膚のトラブルはもちろん、皮膚に関わるさまざまな病気を診療するのが皮膚科です。なかには皮膚がんのように命に関わる病気もあります。また、皮膚に現れた症状が、内臓を含めた全身の病気を見つけるきっかけになることもあります。そのため皮膚科では、必要に応じて他の診療科とも連携しながら診療を行っています。

旭川医科大学病院皮膚科では、旭川以北・以東の広い地域で、専門的な診療を必要とする皮膚疾患に対応するため、さまざまな専門外来を設けています。悪性腫瘍外来では、手術に加えて、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などを用いた治療も行っています。アトピー性皮膚炎、乾癬、掌蹠膿疱症についても、それぞれ専門外来を設け、近年大きく進歩した治療薬を取り入れることで、これまで治療が難しかった患者さんにも新たな治療選択肢の可能性が広がっています。また、血管腫に対するレーザー治療にも力を入れており、必要に応じて入院での治療にも対応しています。2026年4月からは新たに円形脱毛症外来を開設し、従来の治療で十分な効果が得られにくい患者さんに対しても、専門的な診療を提供しています。

診療だけでなく、皮膚の病気について地域の皆さまに広く知っていただくことも、私たちの大切な役割です。学会や患者会と協力し、毎年11月には市民公開講座を開催しています。さらに、これからの地域医療を見据え、遠方にお住まいの方にも専門的な皮膚科診療を届けられるよう、遠隔診療の体制づくりにも取り組んでいます。地域のクリニックや医療機関と連携しながら、道北・道東の皮膚科医療を支える中核施設としての役割を果たしてまいります。

皮膚科学講座について詳しくはこちら→
https://dermat.asahikawa-med.ac.jp/

シリーズ 診療科紹介　泌尿器科

腎泌尿器外科学講座 教授　沼倉 一幸

～「オシッコの悩み」から「がん治療」まで～

「泌尿器科」は男性だけが受診する診療科だと思われていないでしょうか？実は、腎臓・尿管・膀胱・前立腺などの病気を扱い、女性や子どもの診療もしています。尿が近く夜間に何度も起きる、尿が漏れるといった身近な症状から、尿路結石、腎臓・膀胱・前立腺のがんまで、幅広く対応しています。

当科の大きな特色の一つが、手術支援ロボットを用いた治療です。医師が精細な立体画像を見ながら器具を操作し、複雑な手術を精密に行うことができます。前立腺がんや膀胱がんの手術、腎臓の働きを可能な限り残す腎部分切除術などに活用し、病気を治すことと術後の生活の質を維持することの両立を目指しています。

また、女性に多い骨盤臓器脱（膀胱や子宮などが下がる病気）や、子どもの尿の逆流や精巣の位置異常などの病気にも対応しています。病状に応じて、薬物療法や内視鏡手術なども組み合わせ、適切な治療法を一緒に考えます。

進行したがんに対しては、免疫の働きを利用する薬や、がんの増殖を抑える薬などを組み合わせ、患者さんの状態に合わせた治療を検討しています。新しい薬を調べる治験や臨床研究にも積極的に取り組み、道北・道東に暮らす方々が、札幌のような大都市圏に行かなくても身近な地域で質の高い医療を受けられるよう努めています。

また、泌尿器の症状は人に相談しにくく、受診をためらう方も少なくないと思います。しかし、早めの相談が病気の発見や生活の質の改善につながることがあります。地域の医療機関の先生方と連携しながら、一人ひとりの意思と希望を大切にした診療を続けてまいります。気になる症状があれば、まずはご相談ください。

腎泌尿器外科学講座について詳しくはこちら→
https://urol.asahikawa-med.ac.jp/

薬剤部

新薬紹介（90）
ジアゼパム点鼻液（スピジア®点鼻液）

薬品情報室　武田 怜

ジアゼパム点鼻液（商品名：スピジア®点鼻液、以下本剤）は、2025年12月に発売された、てんかん重積状態に適応を有する抗けいれん剤である。規格は5mg、7.5mg、10mgがあり、当院では10mg規格が本年8月より通常採用されている。

てんかん重積状態の治療においては、けいれん発作の持続が長期的な後遺症を来し得ることから、病院に搬送される前の早期治療が特に重要である。しかし、従来のレスキュー製剤は小児適応のみであり、成人における治療の選択肢が限られる。発作により静脈確保が困難な症例もあり、成人に簡便かつ迅速に投与できる薬剤が求められていた。

本剤は国内初の、成人にも使用可能なレスキュー点鼻製剤である。ベンゾジアゼピン系化合物の本剤は、鼻腔から速やかに吸収され、抗けいれん作用を示す。

用法・用量は、通常、成人および2歳以上の小児には、患者の年齢および体重を考慮し、5～20mgを1回鼻腔内に投与する。原則として本剤投与後は救急搬送の手配を行い、10分以内に発作が停止しない場合、呼吸抑制等が見られる場合は、救急搬送する。

本剤の禁忌は急性閉塞隅角緑内障の患者、重症筋無力症の患者、リトナビルを服用中の患者である。重大な副作用として呼吸抑制、依存性・離脱症状、刺激興奮・錯乱等がある。

処方にあたっては、患者の家族等に、投与が必要な症状の判断方法等を適切に指導し、十分な理解を得たことを確認しなければならない。医療機関で投与する場合、無呼吸等に対する救急蘇生の準備を整える。詳細は添付文書等を確認の上、使用方法等の習熟に努められたい。

＜参考文献＞
日本神経学会「てんかん診療ガイドライン2018 」

臨床検査・輸血部

医師を対象に「グラム染色勉強会」を開催！

微生物・遺伝子検査室　川畠 瑠斗

2026年6月19日に、医師を対象として「グラム染色勉強会」を開催しました。

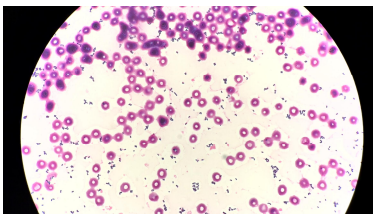
皆さんは「グラム染色」という検査をご存じでしょうか。グラム染色は患者さんから採取された喀痰や尿などを染色し、顕微鏡で細菌の有無や形、染まり方、検体の状態などを観察する検査です。細菌は種類によって、丸い形や細長い形、紫色や赤色に染まるなど、異なる特徴を示します。これらを観察することで、感染症の原因となる細菌を推定する手がかりが得られ、感染症の診療に役立ちます。

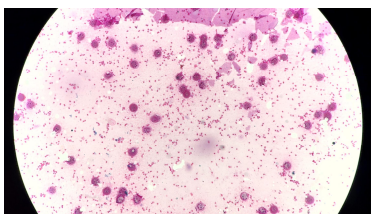
▲ 染色を行っている様子

▲ 標本を顕微鏡で観察

今回の勉強会では、グラム染色の原理や基本的な見方を学んだ後、実際に染色を行い、顕微鏡で観察しました。当院では、日中は臨床検査技師がグラム染色を実施していますが、夜間は医師が実施する場合もあります。そのため、さまざまな標本を観察し、「どのような形態の細菌が見えるのか」、「検体の状態はどうか」など、実際の検査で確認するポイントを体験していただきました。また、普段は検査結果として目にするグラム染色の所見が、どのような手順で得られているのかを知り、理解をより深める機会になったのではないかと思います。

臨床検査・輸血部では、日々の検査に加え、このような勉強会を通して、院内職員に検査への理解を深めていただく取り組みも行っています。今後も検査に関する知識や情報を診療に活用していただけるよう、努めてまいります。


▲ グラム染色標本-
グラム陽性球菌


▲ グラム染色標本-
グラム陰性桿菌

お知らせ

旭川医科大学公式クラウドファンディング第5弾

「北海道の『見る』をまもる｜旭川から挑む、高度で目に優しい、次世代の眼科医療」

2026年11月27日まで挑戦中！

眼科学講座

このたび眼科学講座では、北海道の患者さんに、より高度な眼科医療を提供するとともに、その技術を未来につなぐ次世代の眼科医を育成することを目的として、クラウドファンディングに挑戦しています。

難症例にも安全で、目への負担も少ない手術の実現が期待される「眼内内視鏡」や「手術支援ロボット」といった新しい機器の整備は、本学を含み北海道内では十分とは言えません。これらの機器を活用した「網膜硝子体手術」などの高度な眼科手術を学べる環境を整えることは、患者さんにより良い医療を提供するだけでなく、これからの眼科医療を担う医師の育成につながります。

このクラウドファンディングは、北海道の患者さんが遠方の医療機関へ赴くことなく高度な眼科医療を受けられる環境づくりと、地域医療を支える人材育成の両立を目指しています。

北海道の患者さんのため、眼科医療の未来のため。皆さまのご理解と温かいご支援を、よろしくお願いいたします。

クラウドファンディングのプロジェクトについて詳しくはこちら→

2026年度 患者数等統計

（財務課）

区分	外来患者延数	一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	初診患者数	紹介割合	入院患者延数	一日平均入院患者数	病床稼働率	前年度病床稼働率	平均在院日数（一般病床）
	人	人	%	人	%	人	人	%	%	日
4月	29,102	1,385.8	97.9	1,148	98.2	14,172	472.4	85.1	81.7	10.5
5月	24,761	1,375.6	97.7	949	105.7	13,868	447.4	80.6	81.0	11.1
6月	28,566	1,298.5	98.2	1,168	99.4	14,715	490.5	88.4	80.8	10.0
計	82,429	1,351.3	97.9	3,265	100.8	42,755	469.8	84.7	81.2	10.5

旭川医科大学
クラウドファンディング
ドクターカー更新プロジェクト

ドクターカーデザイン 大募集

「地域の命を守るドクターカー」をテーマに、子どもから大人まで親しみを持てる、明るく温かみのあるデザインを募集しています。 ご応募は11月10日まで！

詳しくはこちら

時事ニュース

・オープンキャンパス　7月29日、30日
・公開講座「健康寿命100歳達成のための秘訣2」　9月14日、16日、18日
・オープンホスピタル　9月26日
・クラウドファンディング　10月1日～11月27日

編集後記

本年度より、病院ニュースの編集委員を務めております。ニュースに携わるようになり、当たり前のことではありますが、病院ニュースの基となっているのは、院内のさまざまな職種の皆さまによる、日頃の、ともすると目に見えにくい地道な活動の積み重ねなのだと実感しています。今後も、そうした活動に光を当て、広く紹介できるような取り組みを続けていきたいと思います。

麻酔科蘇生科　牧野　洋